

# 半導体産業の 人材流出懸念

半導体産業で海外への人材流出が現実味を帯びている。エルピーダメモリの経営破綻に続き、ルネサスエレクトロニクスは大規模な人員削減を計画しており、先行きの不透明感がぬぐえない。こうした背景から、優秀な技術者が外資系企業に活動の場を求める可能性が高まっている。電力制御用のパワー半導体や撮像素子(イメージセンサー)など日本が競争力を持つ分野はあるものの、人材流出が進めば競争力の低下につながりかねない。

## 経営破綻 エルピーダ 大幅人員減 ルネサス

外資系で人員を積極的に増やしているのは、米フリースケール・セミコンダクタ。秋までに日本国内の自動車向けの技術者を年初の3倍に増やす。現在、車載マイコンの技術営業職(フ



パワー半導体流出が進め低下につながる(写真は1シ)

の牙城である日本市場に攻勢をかける。一方、ルネサスと事業支援企業として名を挙げた米マイクロン・テクノロジーは、その技術者を傘下だが、一部では技術者が破綻した直後の出陣した業界関係者テルがエルピーダの

# 技術者、外資に活躍の

## 原発代替エネに特化

### プロフェッショナルバンク 人材獲得事業参入

プロフェッショナルバンク(東京都千代田区、児玉彰社長、03-5501-7855)は7月に、原子力発電以外のエネルギー分野に特化した人材獲得(ヘッドハンティング)事業に乗り出す。再生可能エネルギーや火力、自家発電の技術者と営業担当者の獲得を専門とした組織と情報収集システムを立ち上げた。市場拡大に伴う人材不足により経験者の採用が難しくなっている新規参入企業を中心に依頼を受け、2014年度に売上高1億円を目指す。

同日、原発代替エネルギー分野の人材獲得を担当する専門チームを立ち上げる。依頼企業が求める人材像の把握から人材発掘調査、転職交渉を担当。依頼企業は調査活動の前金のほか、入社決定時に成果報酬を同社に支払う。

稼働率が高まっている火力発電や自家発電の技術者、再生可能エネルギーによる電力の全量固定価格買い取り制度が始まった太陽光発電システム、風力発電の技術者と営業責任者。年齢は30代半ば〜50代前半、年収は700万〜1500万円。インターネット上から関連する人材情報だけを集める独自システムを使い、迅速に人材を探し出す。すでに日本の住宅メー

カー、日本進出を目指す韓国、台湾、米国の商社、太陽電池メーカーなど約20社から依頼があるという。代替エネルギー関連の人材は繁忙を極め、転職機会が少なく通常の採用活動では経験者の獲得が難しくなっている。同社は元パソナ社長の上田宗央氏が04年に立ち上げた。技術者の転職や人材獲得を手がけており、現在の売上高は5億円。

営業拠点を増設  
【京都】京セラは2012年度、中国の販売会社、京セラ(中国)商貿(KCST、天津市)の

設置に備える「Pシステム」制度

片山代表理事

太陽光発電協会(片山幹雄代表理事)シャープ(会長)は2012年度中に太陽光発電システムの



## 施工技術士の 太陽光